

実践例 「学校経営・学級経営の充実・深化」

「課題3 地域に根差し、家庭や地域と連携して豊かな心を育む教育活動の創造と推進」

I 学校名 稚内市立声問小学校

II 研究の概要

学校教育目標 ○自ら学ぶ子 ○思いやりあふれる子 ○丈夫でしなやかな子
重点目標 持続可能な社会の創り手として、コミュニケーションを図り、たくましく生き抜く児童の育成

研究でめざす子どもの姿

○主体的に考え、表現できる子ども ○自ら学び、活用できる子ども

(研究主題) 自ら学び、活用する力を高める子どもの育成
～算数科における指導の工夫を通して～

研究仮説

仮説① 授業づくり

ねらいを明確にした単元デザインや1単位時間の学習過程を工夫することで、主体的に学び、表現できる子が育つだろう

仮説② 個を育てる

身につけさせたい力を明確にし、適切に評価することで、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、活用する力を高めることができるだろう

研究の視点

視点1 思考の言語化

視点2 振り返り

研究内容1 指導計画

・資質・能力の明確化
・学ぶ場面の計画
どんな内容をどの時間に?

令和5年度重点

研究内容2 学習過程

・複式指導における学習過程
・対話的な学習
1時間の中でどのように?

研究内容3 評価と指導

・個に応じた支援
評価問題の工夫
ICTの活用

令和5年度重点

研究内容4 学びの振り返り

・振り返りの視点
・学習用語の活用
何を記述させるか?



学びを支える取組

朝読書・昼きずなタイム・家庭学習・授業規律の統一

児童の実態

令和4年度の反省より

- ・複式授業の中で、課題に向かって自分たちで学習に取り組むことができる。(考えの交流も含めて)
- ・これまでの学習の積み重ねから、自分の考えや気づき、振り返りを書く習慣が身に付いている。
- ・学習用語を正しく使い、根拠を持って説明するなど、自分の考えや学んだことを表現すること(思考の言語化)はまだ不十分。
- ・思考力や表現力を問う問題、記述問題に弱さが見られる。(チャレンジテスト、CRT等)

成果1 学習過程

- 具体的に操作しながら思考する「算数的活動」を取り入れることで、児童が主体的に課題に向かい、学ぶ姿が見られた。
- 教師との対話や仲間との交流、自分たちで思考錯誤しながら取り組む「対話的な学習」を取り入れることで、自分の考えを表現することができた。(思考の言語化)

成果1 評価と指導

- 既習事項や学習の足跡を掲示するなど、「思考を助ける手立て」をとることで、「主体的に考える子」、既習事項を「活用できる子」という姿に結びついている。

成果2 学びの振り返り

- まとめや振り返り、気づきを「自分の言葉で書くこと」の習慣化により、基本的な知識・技能の定着や、自ら学び、活用力を高めるという姿に結びついている。

改善策 *思考の言語化

- ★自分の言葉でアウトプットする機会の保障。
- ★話し方や説明のしかたのゴール(どこまで求めるか?)を教師と児童とで一致させる。
- ★「見せる」交流から「話して」交流へ。思考を書いて表現することが難しい場合は、話してから書く。
- ★児童の考えに「なぜ?」と問い、根拠を持って考え、論理的に説明させる。(問題に対し「批判的に見させる」工夫も。)

改善策 *対話的な学習 *評価と指導

- ★自分たちで学習を進めるにあたり、「友だちの考えを本当に理解しているか?」という視点を大事にする。
- ★学習の定着を確認する評価問題と、学習したことを使って考えさせる活用問題の工夫。

★自分の考えを自分の言葉で表現する力、根拠を持って説明したり批判したりする力を高め、「主体的に学び、表現できる子」「基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、活用できる子」を育てていく。そのための有効な手立て(学習過程、対話的な学習、学習用語の活用、振り返りの視点…)を実践・検証していく1年とする。

Ⅲ 実践例①

第3・4学年 算数科学習指導案

日時:令和5年11月21日(火)5校時

児童:声問小学校3年5名、4年1名 計6名

授業者:阿部 亜矢

3年 単元名「分数を使った大きさの表し方を調べよう」

【単元の目標】

(知・技) 分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解し、分数の加減法の計算ができる。

(思判表) 分数での端数部分の表し方や小数との関係を考え、説明できる。

(態度) 分数での数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとする。

(単元について)

本単元では、もとの大きさや単位分数に着目し、分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解するとともに、分数の加法及び減法の計算方法を考えたり、説明したりする力を養う。児童は日常生活の中で、「折り紙を半分に折る」「ケーキやピザを分ける」などの経験をしてきているが、単に分けるだけでなく「等分する」ということをしっかりおさえながら学習を進めたい。また、端数部分の表し方として、小数は単位量を10等分した単位ではかることを学習したが、分数の場合は単位量を任意に等分して単位をつくるという違いが児童にとってつまずきやすいと考えられる。そのため、単位量を何等分して単位分数をつくったかを意識させながらいねいに指導していきたい。

〈研究との関わり〉

思考の言語化に関わって

児童の実態として、立式をして直感的に答えを求めることができても、何を根拠にどのような筋道で答えを導いたのかを説明することは難しい。そのため、キーワードを使わせたり穴埋めさせたりするなどして、学習用語を適切に使いながら自分の考えを表現できることを目指している。

本時は、同分母の分数の加法の計算方法を考え、説明することをねらいとしている。既習の小数の加減法の計算の仕方をもとに、単位分数に着目することで整数の計算方法に帰着できることを説明させたい。

【単元の評価規準】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・端数部分を表す数や大きさを表す数としての分数やその表し方を理解している。 ・分数の加減法の計算や、分母が10の分数と $\frac{1}{10}$ の位までの小数の関係について理解している。	・分数の数の大きさを図に表したり、計算したりする方法を考え、説明できる。	・分数を用いることで、整数で表せない数の大きさを表せるようになることを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。

4年 単元名「四角形の特ちょうを調べよう」

【単元の目標】

- (知・技) 直線の位置関係(垂直、平行)や四角形(平行四辺形、ひし形、台形)の構成について理解する。
(思判表) 図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の性質を見出して、説明できる。
(態度) 図形の性質を考察した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする。

(単元について)

本単元では、直線の位置関係や四角形の構成について理解し、図形についての見方や感覚を豊かにするとともに、数学的表現を適切に活用して図形の構成について考える力を養う。これまでの学習では、図形をとらえる視点として、辺や頂点の数、辺の長さ、角の大きさなど図形の構成要素に着目してきたが、新たな視点となる辺の位置関係や対角線の性質を根拠として四角形を分類し、特徴を理解できるように指導する。また、本単元では図形の様々な概念や用語が出てくるため、児童のつまづきが予想される。既習の内容を掲示していつでも振り返ることができるようにし、児童の思考のヒントにするとともに確実な定着を図りたい。

〈研究との関わり〉

思考の言語化に関わって

1人学年であるため、算数の授業において自分の考えを伝えたり、人の考えを聞いて深めたりする活動することが難しい。そのため、計算の仕方や図形の弁別の仕方など自分の考えをノートに書いてから教師に説明するという活動を繰り返し、思考の言語化を図ってきた。不十分さはあるが、自分の考えと学習用語を結び付けて、わかりやすく説明しようとする様子が見られるようになってきている。

本時では、「平行が何組あるか」という視点で四角形を分類し、その分け方の根拠を説明させることを通して、台形と平行四辺形の特徴を理解できるようにする。また、そのような数学的な見方・考え方を価値づけることで、思考を言語化し、学習用語を適切に使って相手に伝える力を高めていきたい。

【単元の評価規準】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・直線の垂直や平行の関係と、平行四辺形やひし形、台形の特徴について理解している。	・辺の位置関係や構成要素に着目して、四角形と対角線の特徴について整理し、説明できる。	・身の回りから直線の垂直や平行の関係、様々な四角形を見出し、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしている。

【単元計画】

3年(10時間)			4年(13時間)		
時	ねらい・学習内容	主な評価規準	時	ねらい・学習内容	主な評価規準
1 等分した長さやかさの表し方			1 直線の交わり方		
①	分数の意味に着目して等分した長さの表し方を考える。	分数の意味と等分した長さの表し方を理解している。(知技)	①	2直線が交わってできる角について着目し、垂直の意味とその弁別について考える。	垂直の意味を理解し、弁別できる。(知技)
②	単位分数の個数に着目して分数を用いた長さの表し方を考える。	端数部分の大きさについて、単位分数の何こ分かに着目して考え、説明している。(思判表)	②	垂直な線のひき方	三角定規を用いて、垂直な直線をひくことができる。(知技)
③	分数を用いた長さの表し方に着目して分数での体積の表し方を考える。		2 直線の並び方	③	2直線の並び方に着目し、平行の意味とその弁別について考える。
2 分数のしくみ			④	平行な2直線に交わる直線に着目し、平行な直線の性質について考える。	平行な直線の性質について理解している。(知理)
④	1目盛りの大きさに着目して分数を数直線に表す方法を考える。	数直線を用いて、長さを分数で表したり、長さの比較をしたりすることができる。(知技)	⑤	平行な直線のひき方	三角定規を用いて、平行な直線をひくことができる。(知技)
⑤	単位分数に着目して1より大きい分数の表し方を考える。	単位分数の何こ分という表し方に着目して考え、説明している。(思判表)	⑥	方眼を使い、直線の垂直や平行の関係を考える。	方眼を手がかりにした垂直や平行な直線の弁別の仕方を理解している。(知理)
⑥	もとの大きさに着目して $\frac{3}{4}m$ もとの長さの $\frac{3}{4}$ の長さの違いを考える。	基準量に着目して考え、違いを説明している。(思判表)	3 いろいろな四角形		
⑦	0.1や $\frac{1}{10}$ は1を何等分しているのかに着目して分母が10の分数と $\frac{1}{10}$ の位までの小数の関係について考える。	数直線上に表された分数の大きさと小数の関係を理解している。(知技)	⑦ 本時	平行な辺の組数に着目し、台形と平行四辺形の意味を考える。	平行な辺の組数に着目して、台形や平行四辺形の特長について説明できる。(思判表)
			⑧	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形の性質について考える。	平行四辺形の性質について考え、説明できる。(思判表)
⑨	分数の仕組みに着目して分数の減法の計算方法を考える。	同分母の分数の加減法の計算ができる。(知技) 単位分数の何こ分かに着目して計算方法を考え、式や図を用いて説明している。(思判表)	⑨	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形のかき方について考える。	平行な2直線の作図やコンパスの性質を用いて、平行四辺形をかきすることができる。(知技)
⑩	分数の仕組みに着目して分数の加法の計算方法を考える。		⑩	辺の位置関係や構成要素に着目し、ひし形の意味、性質、かき方を考える。	ひし形の特徴を見出し、かき方を考えて説明できる。(思判表)
3 分数のしくみとさし算、ひき算			4 対角線と四角形の特ちょう		
まとめ			⑪	対角線に着目し、四角形の対角線を考察する。	対角線を用いて、様々な四角形の特徴を理解している。(知技)
⑩	学習内容の習熟、定着 数学的な見方、考え方の振り返り	基本的な問題を解決することができる。(知技) 単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。(態度)	まとめ		
⑪			⑫ ⑬	学習内容の習熟、定着 数学的な見方、考え方の振り返り	基本的な問題を解決することができる。(知技) 単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。(態度)

Ⅲ 実践例②

令和5年8月23日

保護者各位

稚内市立声問小学校

校長 工藤 真

令和5年度「声問町内会敬老祝賀会」への対応について(お願い)

残暑の候、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動の推進に、温かいご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、9月17日(日)12:00から開催される「声問町内会敬老会」について、町内会から出演依頼があり、本校は「よっちょれ」の演舞を発表することになりました。

つきましては、下記の日程や内容で実施いたしますので、ご理解とご協力を宜しくお願いします。

記

1. 日時 令和5年 9月17日(日)
12:00~14:30 敬老祝賀会

※声問小児童は、祝賀会のオープニングとして、「よっちょれ」を、
12:20~12:30あたりの時間帯で発表する予定です。

2. 場所 声問町内会館

3. 集合・解散 声問町内会館

集合: 12:00

解散: 12:45

4. 留意点

- ・地域学習(地域への感謝を伝える機会)として押さえ、登校日とします。(9月19日(火)を4時間授業とし、午後からを振替とします。)
- ・自転車での集合は禁止とします。
- ・保護者の観覧も可能です。
- ・演舞で使用する「はっぴ」や「鳴子」については、学校で用意しますので、持ち物は必要ありません。
- ・服装は、上(きずなTシャツ)・下(自由)とします。踊りやすい服装で集合してください。(裸足で踊ります。)
- ・都合が悪く参加できない場合は、学校(26-2919 教頭:須山)までご一報ください。